Konica

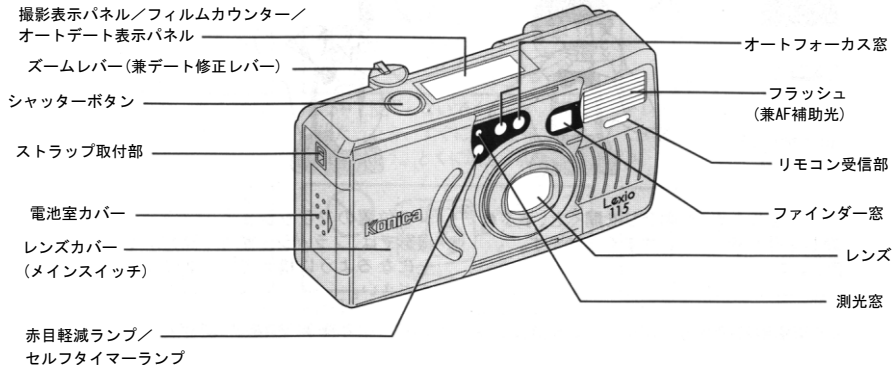
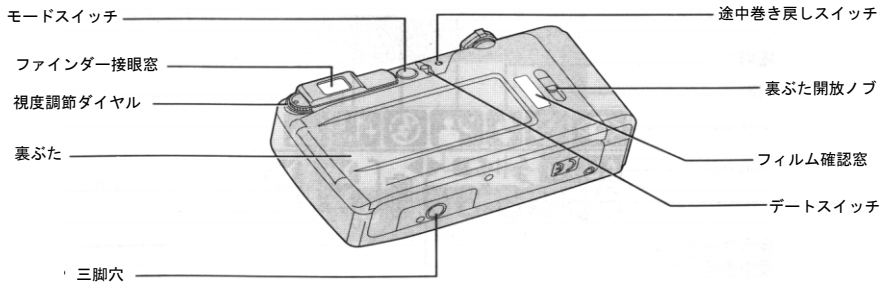
Lexio 115

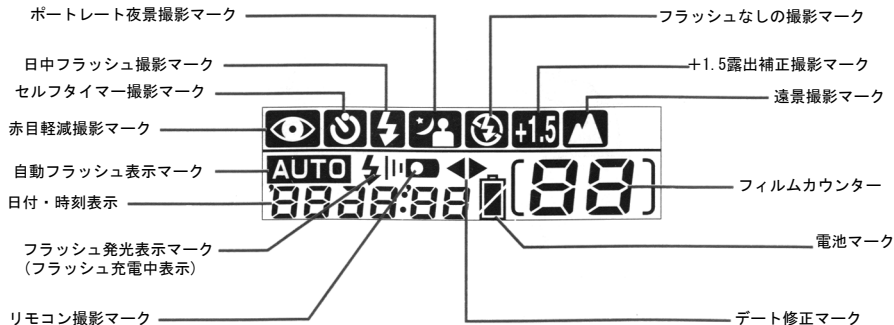
ご使用前に必ず
お読みください。

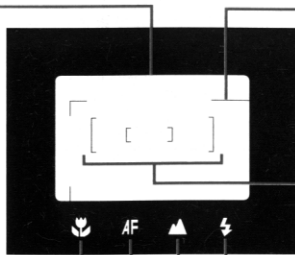
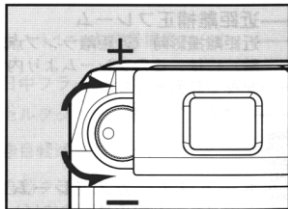
使用説明書

各部の名称

撮影表示パネル／フィルムカウンター／
オートデート表示パネル
ズームレバー(兼デート修正レバー)
シャッターボタン
ストラップ取付部
電池室カバー
レンズカバー
(メインスイッチ)
赤目軽減ランプ／
セルフタイマーランプ
オートフォーカス窓
フラッシュ
(兼AF補助光)
リモコン受信部
ファインダー窓
レンズ
測光窓
Konica
Lexio
115

モードスイッチ
ファインダー接眼窓
視度調節ダイヤル
裏ぶた
三脚穴
途中巻き戻しスイッチ
裏ぶた開放ノブ
フィルム確認窓
デートスイッチ

撮影表示パネル

＊図は全ての液晶を点灯状態で示してあります。

＊ 撮影表示パネルには､ELバックライト付き液晶を使用しています｡バックライトは､電源ON時／モードまたはデートスイッチを押したときに点灯します。

ファインダーと表示ランプ

視度調節

ご使用前に、視度調節ダイヤルを回してファインダー視野が最もはっきり見える位置に調節してください。

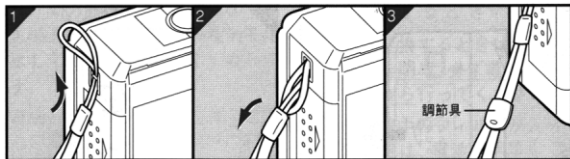
＊ ＋1～-3ディオプトリーの範囲で調節することができます。視度調節ダイヤルを時計方向に回すと＋側、反時計方向に回すと－側に調節されます。

＊ 視度調節は、レンズカバーを開けた状態で行なってください。

ストラップ・リモコンの取付け方

ストラップの取付け方

＊ ストラップ取付部にストラップ先端の細いヒモの部分を通し、通したヒモの輪にもう一方のストラップの端を通して、引っ張ってください。

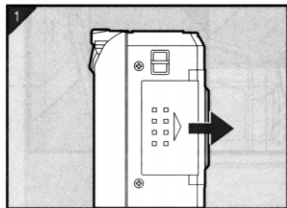
＊ 調節具の突起部は、デートスイッチを押す、あるいはフィルムの途中巻き戻しスイッチを押すなど、小さなスイッチを操作するときにお使いください。

リモコンの取付け方

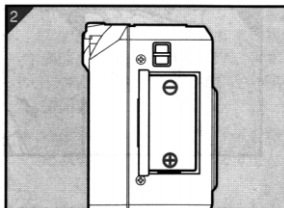
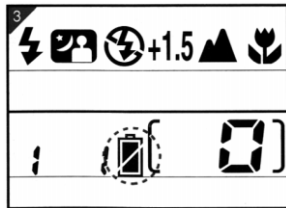
＊ リモコンは、ストラップに取付けることができます。

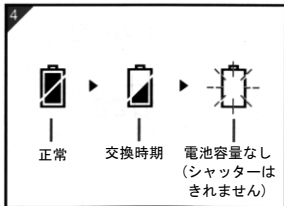
＊ 取外す場合は、逆の手順で行ってください。

⚠警告　爆発して大けがの危険があります。リモコンを火の中に入れたり、加熱しないでください。

1．電池の入れ方

＊電池を入れたとき、交換したときは、必ずオートデートの修正をしてください。

電池室カバーを矢印方向へスライドさせると、カバーが開きます。

＊ 電池を入れるときや交換するときは、レンズカバーを閉め、必ず電源をOFFにしてから行ってください。

電池の＋、－を電池室内の表示に合わせて正しい向きで入れ、電池室カバーを閉じてください。

レンズカバーを開けて電源をONにした状態で、撮影表示パネルを確認してください。電池マークが黒く点灯していれば、電池容量はOKです。

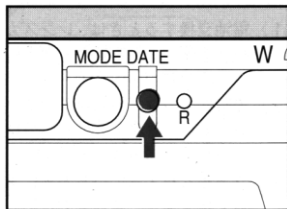
⚠警告	爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱、充電をしないでください。
⚠警告	電池は乳幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込むと死亡する危険があります。

使用する電池は、リチウム電池(CR2:3V)1本です。

* 撮影途中で電池マークが1/2白くなったら、最後まで撮影してフィルムを巻き戻した後、電池交換してください。
* 長期間の旅行や、たくさんの写真を撮るときには、予備の電池を用意しておくことをおすすめします。
* 連続してフラッシュ撮影すると電池容量が少ない表示になり､自動的にパワーOFFになることがあります。その場合、しばらく待ってから電源を入れ直してください。電源ONにしたときに、電池容量が十分な表示になれば、そのまま撮影が続けられます。
* 寒冷地(低温時)では電池の性能が低下しますので、カメラを保温しながらご使用ください。まれに、電池の容量が十分でも容量が少ない表示になることがあります。

電池交換するときのご注意

1) 電池交換するときは、<u>レンズカバーを閉め､必ず電源をOFFにしてから</u>行ってください。
2) 撮影途中のフィルムが入っているときは、電池を手早く(20秒以内)入れ替えてください。
3) フィルムが入っているときに電池交換すると、電源をONにしたときに、フィルムが数コマ空送りされ、フィルムカウンターが“1”になることがありますが、撮影は続けられます。
4) フィルムの終わり近くで電池交換すると、フィルムカウンターが“0”のまま点滅することがあります。このときは、フィルムを途中巻き戻ししてください。

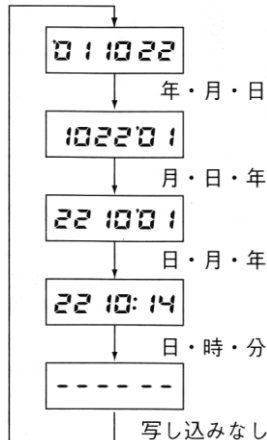
2．オートデート　＊日付・時刻を合わせてください。

2050年までの日付・時刻を記憶し、画面に写し込むことができます。

電源をONにしてから、デートスイッチを押して、写し込みたい表示モードを選択します。

＊ デートスイッチを押す毎に表示モードが切替り、循環します。

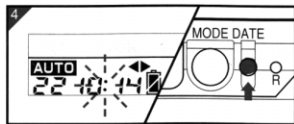
＊ スイッチは、ストラップ調節具の突起部で押してください。

デートが写し込まれる位置に、白や黄色などの明るい背景がくるとデート文字が見えにくくなる場合がありますのでご注意ください。

表示モードの切替え

＊日付・時刻の修正方法(電池を初めて入れたとき、交換したときは必ず修正してください)

1 電源をONにした後、デートスイッチを2秒以上押し続けると、"年"表示とズームレバーマーク(◀▶)が点滅して、修正モードになります。

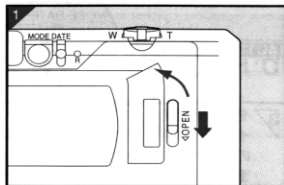
2 ズームレバーを押して、点滅している数字を修正します。T側に押すと数字は進み、W側に押すと数字は戻ります。

3 修正が終わったら、デートスイッチを押してください。数字の点滅が、次の修正個所に移りますので、2 3の操作を繰り返して、月・日と時・分を修正してください。

4 分まで修正した後に、デートスイッチを押すと、:が点滅しますので、もう一度デートスイッチを押してください。
:の点滅が点灯に変わり、修正モードが終わります。

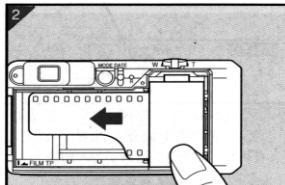
＊ 秒まで合わせる場合は、:の点滅時に、時報のゼロ秒時に合わせて、デートスイッチを押してください。

＊ 修正モードが終わると、年月日表示になります。

3．フィルムの入れ方

＊DXコードの付いた35mmフィルムをご使用ください。

裏ぶた開放ノブを矢印(▼)方向へ押し下げて、裏ぶたを開けます。

＊ カメラ内部のレンズに触れないようにご注意ください。

＊ フィルム確認窓を見ると、フィルムが入っているかどうかがわかります。

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押し入れた後、フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部のフィルム先端マーク(▙FILM TIP)に合わせてください。

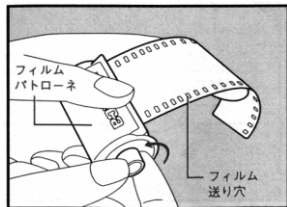
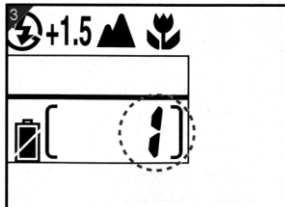
＊ DXコードの付いたフィルムを入れると、使用フィルムの感度(ISO25～3200)が自動的にセットされます。

＊ DXコードの付いていないフィルムの場合、感度は全てISO25にセットされます。

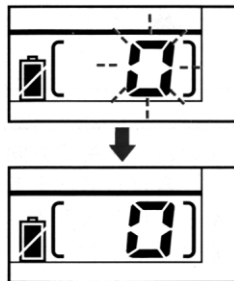
＊ リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、下表のDX導入感度と同一感度のフィルムをご使用ください。

＊ コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

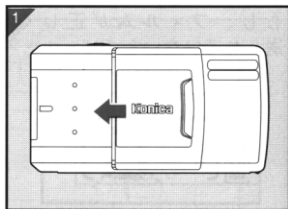
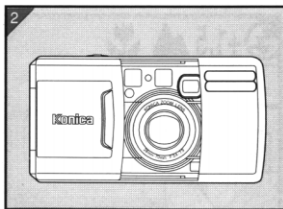
使用フィルム感度のDX導入感度

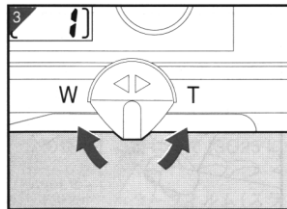
DX導入感度	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1600	3200
	32	64	125	250	500	1000	2000	—
	40	80	160	320	640	1250	2500	—

* フィルムを長く引き出して、フィルム先端マークよりも奥にセットすると、フィルムが送られても、撮影途中で巻き戻しされることがあります。
  フィルム引出し部分が長い場合には、パトローネに少し巻き戻し、フィルム先端マークに合うように長さを調節してください。

裏ぶたを閉じると、フィルムは1枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

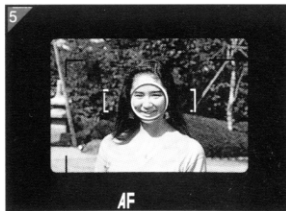
* DX導入感度がISO25にセットされるフィルムをご使用の場合は、フィルムを入れて裏ぶたを閉じた後に、電源をONにしてから、シャッターボタンを1回押してください。フィルムが1枚目まで送られます。

もし、フィルムが正しく送られていないときは…

フィルムカウンターに“0”が点滅した後、点灯します。裏ぶたを開けて、フィルムを正しく入れ直してください。

4．撮影方法(一般撮影)

＊すべての撮影に共通する基本的な撮影の手順です。

レンズカバーを矢印方向へカチッと音がして止まるまで、ゆっくりとスライドさせて開けてください。

レンズが撮影位置まで繰り出して、電源がONとなります。

＊ 前面のレンズが汚れていたら、柔らかい乾いた布で軽く拭き取ってください。

ファインダーをのぞき、ズームレバーを押して構図を決めます。Ｔ側に押すと望遠側(70mmまで)、Ｗ側に押すと広角側(28mmまで)に画面が移動します。希望の構図になった所で指を離して止めてください。

ピントを合わせたい被写体に、オートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にAFランプが点灯し、自動的にピントが合います。

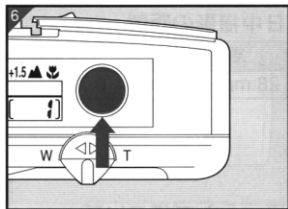
* シャッターボタンは、半押しのままにしてください。
* シャッターボタン半押しでランプが同時に点滅したときは被写体が近すぎてピントが合わない警告ですから、シャッターはきれません。被写体から少し離れて、シャッターボタンを押し直してください。

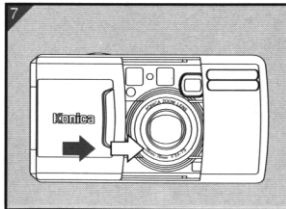
日中撮影の距離

焦点距離	撮影距離
28 mm ～ 70 mm	0.7 m ～∞

表示ランプについて

ファインダー内の表示ランプは撮影距離によって、次の組み合わせで点灯表示します。

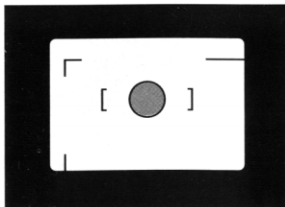
撮影距離（目安）	点灯ランプ
0.7 m ～ 1 m	AF
1 m ～ 4 m	AF
4 m以上	AF

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

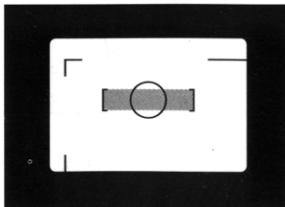
* 撮影が終わるとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が１つ進みます。

撮影が終わったら、レンズカバーを矢印の方向へ軽くスライドさせてください。
電源がOFFとなり、レンズが収納されます。レンズが最後まで収納されたことを確認した上で、レンズカバーを最後まで閉じてください。

* レンズが収納される間、レンズカバーにはロックが掛かりますので、無理に閉めないでください。
* レンズカバーを閉じる際、カバーがレンズにあたらないようにご注意ください。

* 電源OFFのときは、撮影表示パネルには電池マークとオートデート表示、フィルムカウンターのみが点灯します。
* 電源ONのまま約３分間操作をしないと、自動的にレンズが収納位置に戻り、パワーOFFとなります。撮影可能な状態に復帰させるには、レンズカバーをスライドさせ、電源を入れ直してください。
* 撮影が終了したり、長時間撮影しないときは、レンズカバーを閉じてください。

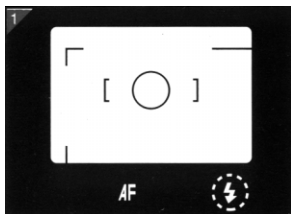
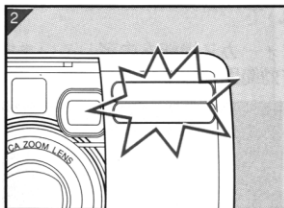
マルチオートフォーカスについて

* このカメラは、マルチオートフォーカス機能を内蔵しています。
  このマルチオートフォーカス有効範囲は以下の通りです。

広角撮影(28mm側)のときは、オートフォーカスフレームの円(○)内の被写体にピントが合います。

* 図の青い部分が、ピントの合う範囲の目安です。

望遠撮影(70mm側)のときは、オートフォーカスフレームの[ ]枠内の被写体にピントが合います。

* 図の青い部分が、ピントの合う範囲の目安です。

5．自動フラッシュ撮影

＊暗いときフラッシュが自動的に発光します。

シャッターボタンを半押しして、⚡ランプが点灯したときは、フラッシュが自動的に発光する表示です。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、フラッシュ撮影してください。

＊ フラッシュ撮影後の⚡ランプ点灯は、充電中ですから、この間シャッターはきれません。また、撮影表示パネルには⚡マークが点滅します。

＊ フラッシュ発光時のシャッター速度は、広角側で最長約1/45秒まで、望遠側で最長約1/60秒までとなります。手ぶれにご注意ください。

＊ 人物のフラッシュ撮影には、赤目軽減撮影をおすすめします。

フラッシュ撮影の距離（ネガカラーフィルム使用の場合）

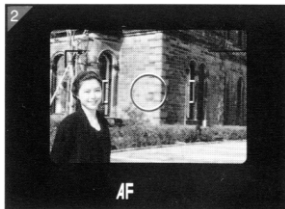
フィルム感度	焦点距離	
	広角撮影（28 mm）	望遠撮影（70 mm）
ISO100	0.7 m 〜 5.4 m	0.7 m〜2.3 m
ISO200	0.7 m 〜 7.6 m	0.7 m〜3.3 m
ISO400	0.7 m 〜 10.8 m	0.7 m〜4.6 m

6．フォーカスロック撮影

＊被写体が画面中央から外れるときは、
フォーカスロック撮影をしてください。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しにしてください。AFランプが点灯し、ピント位置が固定されます。

＊ シャッターボタンは、半押しのままにしてください。

＊ フォーカスロックと同時に露出も固定されます。

シャッターボタンを半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すとフォーカスロックは解除され、やり直しができます。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

①光を反射しにくい黒いもの
②小さいもの、細いもの
③発光体
④光沢のあるもの
⑤雨、霧、煙等の実体のないもの

これらはオートフォーカスしにくいので、同じ距離のオートフォーカスしやすいものに向けてフォーカスロックをしてから撮影をしてください。
また、ガラス越しの遠景撮影の場合は、遠景撮影モードで撮影してください。

＊ 構図を決め直すときに、撮影距離が変わらないようにご注意ください。撮影距離が変わったときは、やり直してください。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

①白壁や青空など、コントラスト(明暗差)の低いもの
②横線だけで凹凸のないもの
③光を反射しにくい黒いもの
④光沢のあるもの、発光体など
⑤強い反射光、逆光があるとき
⑥小さいもの、細いもの
⑦フォーカスフレーム内に極度に距離の違うものが共存するとき
⑧早い速度で移動するもの

以上のような被写体では、オートフォーカスしにくい(ピントが合いにくい)場合があります。このようなときは、ピントを合わせたいものと同じ明るさで同じ距離のものにフォーカスロックをしてから撮影してください。また、ガラス越しの遠景撮影の場合は、遠景撮影モードで撮影してください。

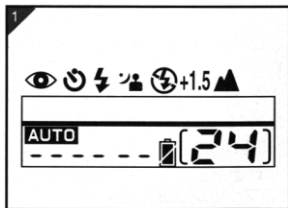
AF補助光について

暗いところや明暗差の少ないものでは、オートフォーカス精度が低下します。

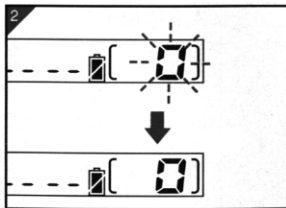
このカメラでは、このようなときにはオートフォーカス精度を高めるために、シャッターボタンを半押ししたときに自動的にフラッシュ(AF補助光)を光らせます。

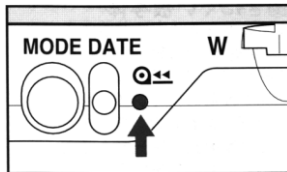
注) オートフォーカスのためのフラッシュ光です。
　　撮影のためのフラッシュ発光と間違えないように注意してください。

注) フラッシュOFFの撮影モードではフラッシュ(AF補助光)は光りません。

7．フィルムの取り出し方

フィルムを最後まで撮り終わると、フィルムが自動的に巻き戻しされます。

＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して、撮影済みの枚数から減算表示していきます。

＊ フィルムの規定枚数より多く撮影した場合には、最後の画面が少し重なることがあります。

巻き戻しが完了すると自動的に停止し、フィルムカウンターに“0”が約５秒間点滅した後、点灯します。“0”点灯を確認した上で裏ぶたを開けて、フィルムを取り出してください。

途中巻き戻しの方法

途中巻き戻しスイッチをストラップ調節具の突起部で押すと、撮影途中のフィルムの巻き戻しができます。

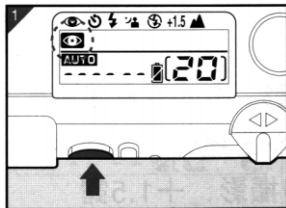
＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

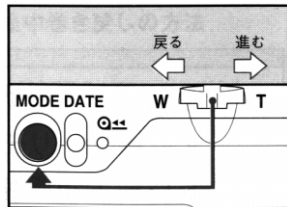
＊ 写し終わったフィルムは、お早めにDP店にお持ちになり「コニカカラー百年プリント」と、ご指定ください。

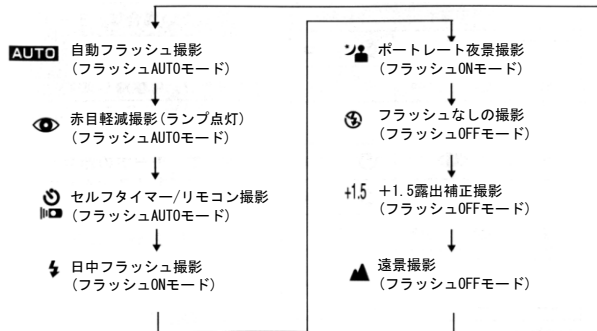
応用撮影

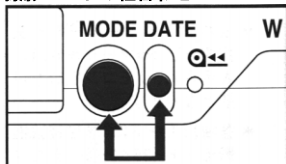
撮影モードの切替えによる赤目軽減撮影、セルフタイマー撮影、リモコン撮影、日中フラッシュ撮影、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、+1.5露出補正撮影、遠景撮影などの応用撮影について説明いたします。

8．撮影モードの切替え

＊被写体に応じて、最適な露出方法を選択できます。

モードスイッチを押す毎に撮影表示パネルに各撮影モードマークが順次表示され循環します。

＊一度設定した撮影モードは設定を変えるまで固定され、そのまま撮影が続けられます。
また、電源をOFFにしてもモードは記憶されており、再度電源をONにした後は、AUTO に復帰しますが、モードスイッチを１回押すと、電源OFF時に設定されていた撮影モードに自動的に再設定されます。
電源をONにしたときは、撮影モードをご確認の上必要に応じて選択し直してください。

＊ モードスイッチを押しながら、ズームレバーを操作してもモード切替えが可能です。ズームレバーをW側に押すとモードを前に戻すことができ、Ｔ側に押すとモードを進めることができます。

撮影モードの循環

* セルフタイマーモードを選択すると、マークが同時に表示され、リモコン撮影も可能となります。
* 各撮影モードに、赤目軽減撮影モードまたはセルフタイマー／リモコン撮影モードを組合わせて撮影することができます。

撮影モードの組合わせ

モードスイッチを押しながら、デートスイッチを１回または２回押すと、各撮影モードに、赤目軽減撮影モードまたはセルフタイマー／リモコン撮影モードを組合わせて撮影ができます。
組合わせのできる撮影モードは表の通りです。

●撮影モード組合わせ表

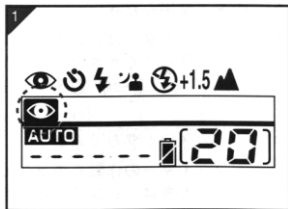
	デートスイッチ 1回押す	デートスイッチ 2回押す
AUTO	[赤目軽減]	[セルフタイマー] [リモコン]
[赤目軽減]	[セルフタイマー] [リモコン]	—
[セルフタイマー] [リモコン]	[赤目軽減]	—
[フラッシュ]	[赤目軽減]	[セルフタイマー] [リモコン]
[人物]	[赤目軽減]	[セルフタイマー] [リモコン]
[発光禁止]	[セルフタイマー] [リモコン]	—
+1.5	[セルフタイマー] [リモコン]	—
[遠景]	[セルフタイマー] [リモコン]	—

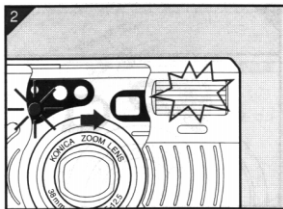
＊ 撮影表示パネルには、選択した撮影モードマークと同時に[赤目軽減]マークまたは、[セルフタイマー]と[リモコン]マークが表示されます。

●撮影モード組合わせ解除

＊ 撮影モードの組合わせを解除したい場合は、モードスイッチを押してください。
通常の撮影モード切替えに復帰します。

＊ モード組合わせの撮影が終わったら、モードスイッチを押して、モードの組合わせを解除しておくことをおすすめします。

9．赤目軽減撮影

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにマークを表示させます。

＊ フラッシュなしの撮影と、+1.5露出補正撮影、遠景撮影以外の撮影モードで、赤目軽減撮影ができます。

シャッターボタンを押すと赤目軽減ランプが点灯した後にフラッシュが発光して撮影が終わります。

＊ 赤目軽減ランプが点灯してからフラッシュ発光までは約0.5秒かかります。この間、カメラを動かしたり、撮られる人が動かないようご注意ください。

＊ 明るい所では赤目軽減ランプ点灯とフラッシュ発光はしません。

赤目現象とは…

暗い場所で人物のフラッシュ撮影をしたときに、フラッシュ光が目の網膜に反射して目が赤く輝いて写ることがあります。これを赤目現象といいます。
このモードでは、赤目軽減ランプで瞳孔を小さくした上でフラッシュが発光しますので、赤目現象の発生を軽減します。

効果的な被写体

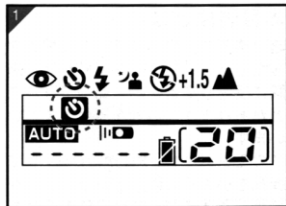
暗い場所での人物のフラッシュ撮影

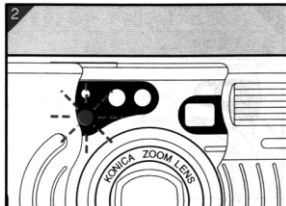
＊ 赤目軽減効果の度合いには個人差がありますが、赤目現象を起こりにくくするには、

① 撮られる人に、視線をランプの方へまっすぐ向けてもらう

② 撮りたい人になるべく近づいて撮影する

などしてください。

10. セルフタイマー撮影

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにマークを表示させます。

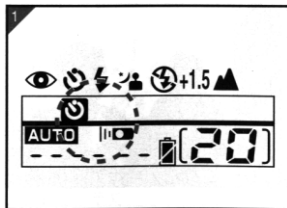
* このモード選択時に、リモコン撮影の選択も可能となります。
* 全ての撮影モードで、セルフタイマー撮影ができます。

シャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

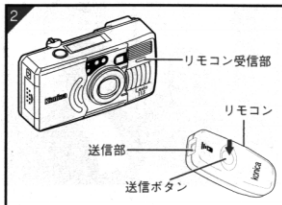
* セルフタイマーのスタートと同時にセルフタイマーランプが約７秒間点滅した後、約３秒間点灯してシャッターがきれます。

* 三脚をご使用ください。
* シャッターボタンはカメラの後側に立って押してください。前側からでは正しいピント、露出が得られません。
* フォーカスロックもできます。
* セルフタイマーの作動をキャンセルしたいときは、レンズカバーを閉じて、電源をOFFにしてください。

* 撮影が終わってもモードは解除されません。セルフタイマー撮影が終わったら、AUTOモードに戻しておくことをおすすめします。そのままにしておくと次の撮影もセルフタイマーが作動します。

11. リモコン撮影

＊カメラから離れて撮影することができます。

セルフタイマーモードを選択すると、マークが同時に点灯しリモコン撮影が可能となります。

＊ 全ての撮影モードで、リモコン撮影ができます。

リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押すと、赤目軽減ランプが３秒間点滅した後、シャッターがきれます。

＊ 三脚をご使用ください。

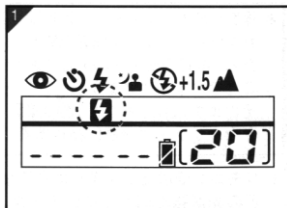
＊ 自動パワーOFFの状態では受信されません。

＊ 受信可能距離は、約5m以内(正面)です。

＊ 撮影が終わってもモードは解除されません。リモコン撮影が終わったら、AUTOモードに戻しておくことをおすすめします。そのままにしておくと、次の撮影でセルフタイマーが作動します。

＊ リモコン受信部に太陽や蛍光灯などの光が強く当たっているとき、或いはインバーター式蛍光灯が近くにあるときはリモコン撮影できないことがあります。そのようなときは、セルフタイマー撮影するかカメラを移動させてください。

＊ リモコンには電池が入っています。撮影できなくなったら、電池交換してください。リモコン裏面にある小さな+ネジ２本を外すとリモコンが２分割でき電池(CR2025)交換が可能です。

12. 日中フラッシュ撮影　⚡フラッシュONモード

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⚡マークを表示させます。

＊ 赤目軽減撮影または、セルフタイマー／リモコン撮影と組合わせて撮影ができます。

日中フラッシュ撮影

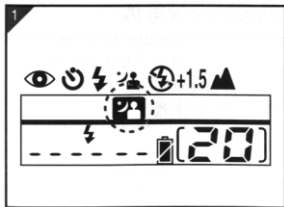
シャッターをきると、明るい所でもフラッシュが発光します。

＊ シャッターボタン半押しで、ファインダー内にAFランプと⚡ランプが同時に点灯します。

フラッシュなし

効果的な被写体

①逆光の人物
②室内の窓際の人物
③曇りの日の人物
④日陰の人物

13. ポートレート夜景撮影　フラッシュONモード

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに マークを表示させます。

＊ 赤目軽減撮影または、セルフタイマー／リモコン撮影と組合わせて撮影ができます。

ポートレート夜景撮影

シャッターをきると、最長約1.5秒までのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

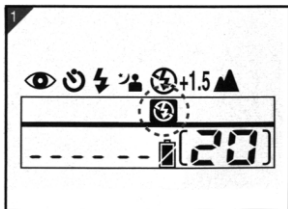
＊ シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれを防ぐために三脚をご使用ください。また、撮影中は撮られる人も動かないようにしてください。

＊ 被写体が動いているときは、ぶれて写ります。

自動フラッシュ撮影

効果的な被写体

①夜景をバックにした人物
②夕暮れをバックにした人物
③バックにフラッシュ光が届かない室内の人物

14. フラッシュなしの撮影 フラッシュOFFモード

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに マークを表示させます。

* シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれを防ぐために三脚をご使用ください。
* セルフタイマー／リモコン撮影と組合わせて撮影ができます。

スローシャッターによる撮影

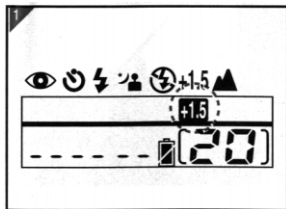
シャッターをきると、最長約1.5秒までのスローシャッターによるフラッシュ発光なしの撮影ができます。

* シャッターボタン半押しで、ランプが点滅したら、光量不足で写真が暗くなる警告です。
* AF補助光は光りません。

効果的な被写体

①フラッシュ使用が禁止されている場所での撮影(美術館など)
②都会の夜景
③日没時の風景

15. ＋1.5露出補正撮影

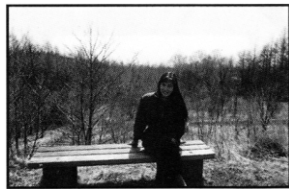
+1.5 フラッシュOFFモード

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに+1.5マークを表示させます。

＊ セルフタイマー／リモコン撮影と組合わせて撮影ができます。

+1.5露出補正撮影

シャッターをきると、標準より約1.5絞り明るい自動露出撮影ができます。

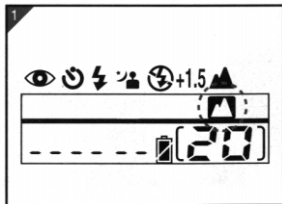
＊ 暗い場所では手ぶれを防ぐために三脚をご使用ください。

＊ AF補助光は光りません。

露出補正なしの撮影

効果的な被写体

①画面全体を明るく仕上げたいとき
②スキー場の人物
③逆光の人物
④白バックの人物
⑤明暗コントラストが強い建物の暗部を明るく写したいとき

16. 遠景撮影　フラッシュOFFモード

ガラス越しの風景を遠景撮影

一般撮影

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにマークを表示させます。

* シャッターボタン半押しで、ファインダー内にランプが点灯します。
* セルフタイマー／リモコン撮影と組合わせて撮影ができます。

オートフォーカスフレーム内の被写体に関係なく、遠景にピントのあった撮影ができます。

* 夕・夜景など暗いときの撮影はシャッター速度が遅くなりますので、手ぶれを防ぐために三脚をご使用ください。
* AF補助光は光りません。

効果的な被写体

①遠い風景
②金網やガラス越しの風景

おもな仕様

＊下記性能については当社試験条件によります。
＊製品の仕様、外観については予告なく変更することがあります。

項目	仕様
形　式	：レンズシャッター式ズームレンズ付ＡＦ全自動35 mm カメラ
画面サイズ	：24 × 36 mm
レンズ	：コニカズームレンズ 38 mm F4.5 ～ 115 mm F12.5（6群7枚）
パワースイッチ	：レンズカバー開でレンズが繰り出し電源がON、レンズカバー閉でレンズが収納され電源がOFF、電源ONのまま約3分間操作をしないと自動的に電源OFFしレンズ収納
シャッター	：絞り兼用プログラムシャッター、電磁レリーズ、約1.5秒～約1/300秒
焦点調節	：外光パッシブ式マルチオートフォーカス、撮影範囲：0.6 m～∞、撮影範囲外レリーズロック（緑ランプ点滅）、フォーカスロック可能、遠景撮影可能、AF補助光有り
露出調節	：CdS受光素子使用プログラムAE、中央重点測光
露出連動範囲	：ISO100フィルム使用時：f =38 mm　EV4 ～ EV16、f =115 mm　EV7 ～ EV16
フィルム感度	：自動設定（ISO25 ～ ISO3200）
ファインダー	：実像式ズームファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正フレーム、ファインダー内に緑ランプ3種（点灯；AFロック、近距離撮影表示、遠距離撮影表示、点滅；近距離警告，測距不能警告）、赤ランプ（点灯；フラッシュ発光表示、フラッシュ充電中表示、点滅；低輝度連動外警告）、＋1～－3ディオプトリーの視度調節可能
フラッシュ	：手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、発光間隔・約6秒、連動範囲・（ISO100）f =38 mm　0.6 m ～ 5 m、f =115mm　0.6 m ～ 1.8m

モード切替え	：自動フラッシュ撮影、赤目軽減撮影、セルフタイマー/リモコン撮影、日中フラッシュ撮影、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、＋1.5露出補正撮影、遠景撮影の各モードを選択可能、各モードに赤目軽減撮影またはセルフタイマー／リモコン撮影モードを組合わせ可能（撮影表示パネルに選択及び組合わせ状態を表示）
セルフタイマー	：電子式、作動時間・約10秒、セルフタイマーランプが約7秒間点滅した後に約3秒間点灯、途中解除可能
リモコン	：赤外光利用の専用リモコンシステム、送信ボタンで始動、受信可能距離約5ｍ以内（正面）、電池CR2025・3V 1個、電池寿命約10,000回
フィルム給送	：電動式、裏ぶたを閉じるとスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了で自動巻き戻し、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	：順算式、撮影表示パネルに表示（撮影表示パネルはELバックライト付き）
オートデート	：液晶表示式デジタルウォッチ内蔵、2050年までの年月日・月日年・日月年・日時分を表示、写し込みなしも選択可能、秒単位まで修正可能、月差・±90秒以内
使用温度範囲	：－10℃～＋50℃
電池寿命	：50%フラッシュ発光のとき約15本（24枚撮りフィルム）
電　源	：リチウム電池（ＣＲ２・３Ｖ）１本
大きさ	：111×61.5×38.5mm
質量（重さ）	：200 g （電池別）